

## こどもを痛みから守る医療を目指して

### ーワクチン接種の痛みを防ぐ意義、接種後の遷延痛の対応のポイントー

日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野

加藤 実

病院のこども憲章（1988年）で、医療倫理の視点から小児の検査、処置、そして治療に伴う身体的、精神的ストレスを軽減策が講じられるべきと提言された。しかし、本邦の医療現場で痛み軽減策は必ずしも十分に実践されていない。しかし痛みの大きさを減らす新たな意義が注目されている。ワクチン接種時の痛み軽減法の研究は、手技、薬理的、物理的、心理的方法が検証され、エビデンスに基づいた具体的な方法が誕生した。2015年に Taddio A らによりカナダでのワクチン接種時の痛み減らすためのガイドラインが誕生し、WHO からもワクチン接種時の痛み軽減法が提示された。本邦でも医療者と利用者が、痛みの大きさを減らす痛み軽減法の実践は、ワクチン接種に伴うこども達の辛さの軽減と笑顔への近道であることを強調したい。